



魅力ある授業とは

校長 友生 雅夫

6月も残りわずかとなりました。気付いてみると、令和7年度も振り返りの時期になっています。子どもたちの様子を見てみると、ここ3か月で成長しているなあと感じます。まず、あいさつでしょうか。何百メートルも先から「校長先生、おはようございます」とあいさつする子どもが増えています。地域の方から、「あいさつがいいですね」と言っていたくことが多くなりました。これからも大切にしていきたいと思います。

話は変わりますが、日置市教育振興計画の中に、「魅力ある学校づくり」が掲げられています。その中でも、「魅力ある授業づくり」に取り組みたいという思いがあります。昨年まで2年間、鹿児島地区の国語の研究協力校として、「書くこと」領域を中心とした実践に取り組んできました。その中で、どのような取組をしたら、書く力は高まるか、学習指導の仕方（学習指導法）について実践を重ねてきました。指導の仕方を工夫することで、子どもたちの「書きたい」意欲は高まりつつあります。お礼の手紙を書いたり、新聞投稿をしたりする機会も増えました。ただ、「子どもたちの書く力は本当に高まっているのか」という話も出てきました。そのために、もう1年、研究を継続することにしました。そこで、出されたのが、先生方の「1人1授業」です。係が中心となり提案しましたが、「書く力を高めるには、教師個々の授業力を高める必要がある」という思いがありました。

「主体的、対話的で深い学びのある授業」、「学習者主体の授業」など言葉があふれています。ただ、何が違うのでしょうか。何を大切にしないといけないのでしょうか。本校では、6月末まで、4本の授業がありました。実践をする中で課題もあります。ただ、その中で、ヒントが見つかってきている感じはします。

授業を見る際、子どもの動きを観察します。教師の働きかけですらすらメモが書けたり、整理できたりする子どももいます。ただ、中には、子どもが自分の思いどおりには書けない場面にも出会います。これは、今までと変わらないことかもしれません。ただ、大切なのは、書けないと予想される子どもがどうしたら1授業の中で書けるようになるのか、その子のために1単元でどのような手立て（ノート指導、ワークシート、板書など）が必要かを予想し、計画的に指導することかなと感じています。もちろん1授業をする先生は、大変ですが、「わたしも指導する中で、〇〇なことに悩んだから〇〇をしてみれば」という意見が出てくれば（意見交換ができれば）と感じています。

校内研修（教師が指導の仕方などについて話し合う場）で、話題になったことは、「教師が教えることは何で、子どもに考えさせることは何か」です。当たり前のことかもしれませんが、「学習者（子どもたち）主体の授業」とはどんなものか、教師個々で考えが違うようです。1授業をとおして、話し合いを進める中でその違いを埋めていきたいです。